



【秋田県版】  
No. 373  
2022年7月15日

治安維持法犠牲者  
国家賠償要求同盟

発行人：田中幹夫  
〒113-0034 東京都  
文京区湯島2-4-4

秋田県本部

〒014-1413  
秋田県大仙市角間川町  
宇東中上町27  
最上健造 方  
TEL&FAX  
0187-65-2115

同盟運動の目的

- ふたたび戦争と暗黒政治を許さないために
- 1、国は、治安維持法が人道に反する悪法であったことを認めること
  - 2、国は、治安維持法犠牲者に謝罪し、賠償を行うこと
  - 3、国は、治安維持法による犠牲者の実態を調査し、その内容を公表すること

第40回全国大会  
3年ぶりに開かれる

新会長に吉田万三さん

「コロナ」で延期されていた第40回全国大会が、6月12日、13日「全労連会館大会議室」で開かれました。

秋田県からは、藤田精士さん（県本部事務局長）と佐藤ミツ子さん（県本部理事・同事務局員）の二人が代議員として出席しました。

一日目の会議終

了後、近くのホテルで、故人となられた増本会長や針谷副会長などを偲ぶ追悼の集いと夕食会が行われました。

討論では、映画『わが青春つぎるとも』の上映運動と結んで、会員拡大の経験が発言されました。

新しい会長には、東京の吉田万三さんが選出されました。吉田さんは東京都本部会長で本部副会長でした。吉田さんはかつて共産党の

推薦で足立区長に当選しましたが、自民党などの理不尽な攻撃と闘うも、区長の継続ができなくなった方です。現在は歯科医を続けつつ、全国民医連の副会長を務めています。お父さんは治安維持法弾圧の犠牲者で党幹部だった吉田資治さんです。

最上健造さんも引き続き副会長に選出され、高田博さんが理事に再選されました。

第33回県本部定期総会  
7月24日(日)  
13時30分～16時頃  
秋田市文化会館  
(県大会)

# 映画『わが青春つきるともー伊藤千代子の生涯』鑑賞者の感想

秋田市で行われた県内最初の上映会(6月15日)に寄せられた感想を紹介します。

◆「若くして亡くなった伊藤千代子さんの生涯を知ること、勇気づけられました。このような方々の努力のうえに今の生活があることを忘れてはならないと思います」(女性・80代)



性・30代) ◆「今当たり前に享受している平和が、数えきれない先人の犠牲の上にあることを改めて痛感しました」(女性・60代) ◆「とてもいい映画を観せていただきました。いま生きる原点を思い起こしました。ありがとう」(女性・70代)

70代) ◆「24歳の強固な意思にただ驚いた」(女性・70代) ◆「息もつかせぬ真にせまるエイガでした。千代子の強い意志をよくかみしめ生きていこうと思いました」(男性・70代) ◆「千代子の意志の強さに」(70代) ◆「千代子のように信念をつらぬくことは私には困難かも知れないが、彼女の不屈の精神はすばらしい。あの時代に、このような女性がいたことを知り、大変励まされました。工藤さん、皆様ありがとうございました。お疲れ様でした。／今また戦争に向かっていくように思います。反戦、平等、平和を守りましょう」(女性・70代) ◆「全体にゆつたりしていて、昭和の感じがしました。刑務所や病院のシーンが少し長過ぎる気がした。もっとテンポの早いドラマや映画に慣れているせいかも知れない。治安維持法がなくなって良かったと思う」(女性・60代) ◆「今年、日本共産党創立100周年。伊藤千代子の生涯は、それにふさわしい記念碑・感動しました」(男性・80代) ◆「13年生まれの私には少し難しかった。ずい分ひどい目に合った人達がいたんですね。これからその当時の本をよんでみます」(女性・80代) ◆「なみだ なみだ なみだ」(70代) ◆「千代子の主義主張を曲げない生き方を強調するあまり、物語が平板になったきらいがある」(男性・70代) ◆「ショックでした。あの当時あんなにたくましい女性達がいたなんて、本当にびっくりです。女性の地位が低く、皆さんの結末がすばらしいです」(女性・70代) ◆「24才の清冽な生き方に心



がふるえました。人間の強さも弱さも力いっぱい描かれていたと思います」(60代) ◆「大変な時代でしたね」(女性・80代) ◆「すごい人ですね。思想をとりしめる側もよくわかりました」(女性・60代) ◆「あまり極左も?と思った。私なら浅野くらいの間でも良いのと思った。でも戦後の浅野の反マルクスは変だと思った。この女優、有名になつてくれれば良い」(男性・60代)

## 「特高」等の学習のために本紹介 (値段は当時)

いま入手可能 (一部絶版かもしれない)

- ◆ 額瀨厚著『戦争と弾圧―三・一五事件と特高課長・額瀨弥三の軌跡』(新日本出版社2020年2200円+税)
- ◆ 柳河瀬精著『告発 戦後の特高官僚―反動潮流の源泉』(日本機関紙出版センター2022年5刷1714円+税)
- ◆ 荻野富士夫著『特高警察』(岩波新書2012年800円+税)
- ◆ 井形正寿著『「特高」経験者として伝えたいこと―敗戦前後期の特別高等警察・思想弾圧と抵抗』(新日本出版社2011年1400円+税)
- ◆ 「赤旗」社会部編『証言 特高警察』(新日本新書1981年540円)
- ◆ 「特高警察酷暑」編集委員会編『特高警察黒書』(新日本出版社1977年1200円)
- ◆ 荻野富士夫著『思想検事』(岩波新書2000年660円+税)
- ◆ 額瀨厚著『憲兵政治―監視と桐喝の時代』(新日本出版社2008年1900円+税)
- ◆ 荻野富士夫著『特高警察体制史―社会運動抑圧取締の構造と実態』(せきた書房1984年8900円)
- ◆ 日本共産党中央委員会出版局『特高史観と歴史の偽造―立花隆「日本共産党の研究」批判』(日本共産党中央委員会出版局1978年2000円)
- ◆ 松浦総三編『昭和特高弾圧史1・2―知識人に対する弾圧―一九三〇～四五年』(朝鮮人)「庶民」(朝鮮人)に対する弾圧』(太平出版社1975年各1800円)
- ◆ 高島真著『特高Sの時代―山形県社会運動史のプロファイル』(新風舎1999年1980円)
- ◆ 朝日新聞山形支局『聞き書き ある憲兵の記録』(朝日新聞社1985年1000円)
- ◆ パンプ『特高警察の陰謀 復活許さず―反共意見質問をめぐって宮本委員長に聞く』(日本共産党中央委員会出版局1976年70円)
- ◆ 銅銀松尾著『最後の特高警察』(白川書院1974年950円)

終戦50周年特集「私の戦争体験」(11)

「戦争と治安維持法と父」 渡部 馨

六十余年前の戦争初期の記憶を辿ったことだが、それが正しくはいつであったか、また事件の内容がどんなものであったかは、終戦後、村の人々の口から出る戦争中の「話しッコ」から知ったことである。

起こった事件というのは、私の父が、ある日、特高警察に引っぱられ、二週間も家へ帰って来なかったことである。それが、私が何才の時であったかは、つい最近わかったことで、とにかく私の幼い頃のことであった。

◇ 事件というのは。その日

午前中、祖父母も父母も私の兄弟六人も全員が家にいた時である。ボロ家のガタピシする入口の戸が大きな音をたてて開かれ、吃驚する怒鳴り声とともに、三人の人(私服警察)が、土足のまま家の中に踏み込んで来た。そして、あっちこち引っくり返しなが

ら、家の隅々を調べ廻り、それが終わった直後、父は手をしばられ、アミ笠を被らされて連れていかれた。その三人の「人」に引っぱられて家を出る時、父の「すぐ帰ってくるからナ」との妙に落ち着いた声と、姉二人が抱き合って泣き叫んでいた光

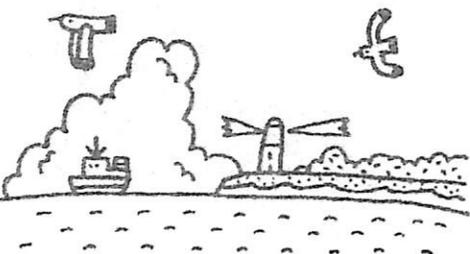
景、そして私が、父をいじめる三人に、かなわぬまでも、むしゃぶりついたことなど。六十年余後のいまもはつきり脳裏にやきついていてる。

あれが何であったか、その事件から、二十年ぐらい経った頃、村の色々な機会での話では「戦争中、治安維持法という法律があり、特高(特別高等警察)が『天皇について失礼な言葉をはなつたり(不敬罪)』『国政(戦争)を批判したりする人たち』を、かたっぱしから逮捕して強制的な取り調べをした」とか、「あの時は、太工門のドド

(私の父)が、W、Lとともに三人逮捕され、うちWが二ヶ月も長く拘束された。逮捕の理由は、町長選挙のとき、『スターリン万才』という票が一票あって、その疑いが三人にかけられたのだ」などの話や噂が流された。

さて、それが、正しくはいつであったのか、三たび頭をかき上げて見た。そしてこれを知るには、あの時逮捕された三人の中で、いま生存しているLさんに聞いた方が一番良いことに気づいた。Lさんは、八十九才でまだ健在である。つい最近Lさんを訪ねた。そして、「うちの親父と一緒に特高に連れていかれたのは何時でしたか」と聞いたところ、しばらく首をかしげ、指折り数えていたが、「はつきりしないが、昭和十三年ではなかったかナア」と答えてくれた。昭和十三年とすれば、

私が小学校一、二年であり、二つ年上の姉が「私が小学校三、四年頃」と答えているのからすれば、昭和十三年というのがあったっており、支部(ママ)事変(※支那事変)が起きた翌年である。そしてLさんに、「何故逮捕され、取り調べを受けたのですか。うわさでは、町長選挙で、『スターリン万歳』という票があったからだとも言われているが：。」と聞いたところ、「そんなことはない。私たちは、連れていかれる前三、四回亀田のH旅館に引っぱられ、きつい取り調べを受けた。特高が、『お前共産主義者だろう』といったところを見れば、共産主義者だけをせめたのではないか」とも言っていた。特高がああ頃弾圧の第一的にしぼったのが共産主義者であったとの政治情勢をふりかえればうなずける。



ともかく、『治安維持法』による弾圧は、どんな田舎にも吹き荒れたのだナアと、現在のオール与党の政治を、どこがどう重なり、そのことから私たちは何をまなびとるべきであろうか。一と思うこの頃である。(本庄由利支部会員・本庄市議)

※渡部さんは故人です。元国賠同盟本庄由利支部会長、本庄市議会議員でした。

今月の注目言葉

- ▼中満泉(国連軍縮担当上級代表・事務次長) 「非人道性の議論は、核兵器禁止条約の締結国や支持国に限られるべきではない。これは地球上のすべての住民の問題だ」(「しんぶん赤旗」2022・6/22一面より)
- ▼平和遺族会 「憲法9条は戦没者の遺言」(「しんぶん赤旗」2022・5/25「朝の風」より)
- ▼コラム 「近年になく緊張が高まっている今だからこそ、冷静に平和を希求し続けるリーダーが望まれよう」(「秋田さきがけ」2022・5/27「北斗星」より)

▼沖縄「祖国復帰闘争碑」の一文 「闘いをふり返り、大衆を信じ合い、自らの力を確かめ合い、決意を新たにしよう。ためにこそあり、生きとし生けるものが自然の摂理の下に生きながら得るために警鐘を鳴らさんとしてある」(「しんぶん赤旗」2022・5/15「潮流」より)

※今は「祖国復帰」でなく「本土復帰」という言葉が使われている



治安維持法と現代 絶賛発売中

¥1000

# 「治安維持法・戦争・弾圧・反共との闘いと抵抗」

## 【学習資料】⑤

### 国を売るスパイ。戦争反対は治安を害する

引用した文献

★昭和16(1941)年6月発行 東京刑事地方裁判所検事局

「東京刑事地方裁判所検事局 司法警察官吏訓練資料 特第十輯(しゅう)(昭和十六年六月) 極秘『国防保安法並治安維持法改正法律の運用』」

▼「1、池田検事正訓示―社会情勢はややもすれば共産主義その他の不逞思想の跋扈(ぼっこ)に絶好なる機会を供するのみならず、他面いわゆる敵性国家が此の機会を利用し、一層執拗に我が国に対する諜報謀略の魔手を伸ばす

ことは、固(もと)より当然のことと存せらるるのでありますから、現下の窮迫せる情勢に鑑(かん)がみ、苟(い)やしくも国体に背反するが

如き不逞の徒輩に対しては、断乎これを糾弾してその絶滅を図ると共に、国家の存立を脅かすが如き諜報謀略に従事する不逞行動者に対しては、峻厳なる処置を以てこれに臨み、外諜活動を完全に封殺して以て治安の確保を全からしむる必要の緊切なるものあるや論を俟(ま)たざるところであります。…斯(か)かる重大なる犯罪に対しましては、強力にして統一ある捜査を敏速且つ適正に、しかも飽く迄も合法的に実施致しますことを、緊切なる要努とするのであります。」

「2、質疑応答―民心を動揺させるような戦争反対の意見であれば、これは矢張り治安を害すべき事項に該当する」

### 絶滅、根絶のための致命的打撃を加えても再建する

引用した文献

★昭和8(1933)3年1月 帝国議会 衆議院秘密会議事録

「第64回議会本会議(共産党検挙に関する件並に5・15事件に付いての報告)

▼小山松吉司法大臣の報告―迫窮する今日の情勢に於いて「日本共産党にたいしましては…その絶滅を期し」、「その都度党組織の上に致命的打撃を加え」、「極刑をもって、最も重き刑罰をもって」努力してきた。しかし、昭和3年

依頼(ママ)警察当局の不断の努力によりまして検挙をせ

られ、度々潰滅の状態になりました日本共産党が、幾何(いくだ)もなく又再建せられましたのであります。歴代の内閣も鋭意是が根絶に努力致したのでありますが、未だ目的を達成することができないのであります」。

### 終息したのじ再び台頭の気運がある

引用した文献

★昭和12(1937)年8月発行「特高教程」青木貞雄著

▼「昭和9年を末期にさしても猛威をふるった『日本共産党』も殆ど終息するの形となった。しかし前叙の通り十年七月のコミンテルン第七回大会の決議によって再び台頭の気運あるは警戒を要するところである」